

A Monsieur H.

RÉSUMÉ DE CE QUE NOUS AVONS FAIT

Depuis quatorze Mois

Du 15 février 1838,

Au 15 avril 1839.

RÉSUMÉ ET CONCLUSION

I.

Trois facultés dominant toutes les autres dans l'individu : l'Action, l'Intelligence et la Volonté. La rang que je leur assigne ici représente juste l'inverse de leur ordre d'influence sur l'homme social, et juste aussi l'ordre dans lequel on doit les développer pour mener à bien l'éducation exceptionnelle qui nous occupe.

II.

Trouvant un corps agité de mouvements convulsifs et incessants, je l'ai condamné à une

われわれの14ヶ月の教育実践
(1839年)

—その要約と結論

松矢勝宏訳

1 一般的視点

三つの能力が、人間の他の諸能力を支配している。すなわち、活動、知性、意志である。私がここでふり当てた順序は、それらが社会的存在である人間に与える影響の度合いとしては、まさに逆の順序となる。しかし、われわれが専心する特別な教育を成功させるためには、活動・知性・意志の順にこれらの能力を発達させねばならない。

2 活動の統制—自己の認識

痙攣的な堪えない運動にかりたてられている彼の身体をみて、私は彼に1か月間にわたり、不動の姿勢を

H 氏へ

われわれが14ヶ月前から為してきていることの要約

1838年2月15日から

1839年4月15日まで

川口幸宏訳

要約と結論

1.

三つの能力、すなわち活動、知性および意志は、人に備わったその他のあらゆる能力を支配する。私がこのように三つの能力を割り振った順序とはまるで正反対を表しているが、われわれが取り組む特別な教育を首尾よく導くためにはそれらの能力を発達させなければならず、そのためにはどうしても必要な順序であることを言い表している。

2.

痙攣し絶えず落ち着かずに動いている身軀に出会ってから、私は1ヶ月間かけて、身体が痙攣しないよう

第1教育論解題

川口幸宏

1

それまで歩んでいた人生行路とはまったく縁のない白痴教育の世界に踏み出したその最初の足跡が、「H氏へ われわれが14ヶ月前から為してきていることの要約」という記録である。セガン第1教育論と呼ぶことにする。

セガンが白痴教育に関わるに至った経緯については、アメリカに渡って書かれた論文「白痴たちの治療と訓練の起源」(1856年)等に綴られている。そのことについては多くの研究者が紹介しているところなので、ここでは省略をする。

人を介してアドリアンという子どもの教育に携わることになった。白痴教育の先駆者とされ若い頃の父の友人だったJ. M. G. イタールの先導があったという。セガンは次のように述べている。

イタール博士氏はわが父とはヴァル・ドゥ・グラスでの元学友で、私の最初の研究をしっかりと指導しようとしてくださった。そればかりではない。彼が1800年来白痴教育に関して集め

immobilité d'un moins; et l'*immobilité* était le seul point du levier sur lequel on pût s'appuyer pour obtenir une *action* régulière. La marche du soldat, imitation de divers mouvements de la tête et bras ont commencé à donner à l'enfant les notions du *moi*.

III

La notion du *non-moi* est née ensuite de la comparaison des parties relatives de certaines figures, et des différences de plusieurs figures juxtaposées.

Ces deux *notions* (bien qu'elles n'aient existé longtemps qu'à un état très-vague) étaient indispensables pour obtenir une *action* même obéissante et passive, puisque toute *action* d'un individu le met en contact avec les phénomènes qui ne sont pas lui, et peut être définie une communion du *moi* et du *non-moi*.

教えた。不動の姿勢は、人間が統制された活動を獲得するために、あてにすることができる唯一の梃の支点であるからだ。軍隊行進、頭や手のさまざまな動作の模倣は、この子どもに「自己」(moi)という観念を与えることになった。

3 活動の統制—自己以外のものに対する認識

次に、「自己以外のもの」という概念が、いくつかの図形の対応する部分の比較や、対にしたたくさんの図形の相違の比較から生じた。「自己」と「自己以外のもの」という二つの概念は(それにもかかわらず、しばらくの間は、きわめて漠とした状態で意識されていたのであるが)、指示に従う受動的な活動そのものを獲得するために不可欠なものであった。なぜならば、人間のいかなる活動も、彼と彼以外の事象との接触、「自己」と「自己以外のもの」との交渉が必要であるからである。

な、不安定に動かないような姿勢を取らざるを得ないようにし続けた。というのは**不動の状態**こそが、正当な**活動**を獲得するために必要な唯一の手段であったからだ。兵士の行進、その、頭と腕のさまざまな動きを模倣することによって、子どもは**自我**という観念を身につけ始めた。

3.

続いて、幾つかの図形から相互に関係しあうものを取り出したり、たくさん並べ置いた図形から違うものを取りわけたりすることによって、**非我**の観念が生まれた。

この二つの**観念**(それらは長続きせず、漠とした状態なのだが)は、まさに従順で受動的な**活動**そのものを得るために必要であった。というのも、人のあらゆる活動は、自分ではない事象と接触することであり、そのことで**自我**と**非我**との一致が明確にされうるのである。

てきた宝の山=観察結果を一気に私に開示してくれた。それらは、イタールが彼の最初の生徒、かの名高いアヴェロン野生児に教育を施した際のものであった。彼は、もう決して使うことのない資料を私が意のままに使うことを許し、40年に及ぶ経歴を有する非常にすばらしい仕事を私の若々しい情熱に任せただけであった。

なるほど、セガンの初めての白痴教育実践は、セガン自身が言うように「イタールの下絵による鑄造物」(1846年著書、323頁)とみなされよう。イタールがヴィクトール少年に行った教育・訓練をそのまま想起させられる叙述が、第1教育論に見ることができるのである。同教育論は1838年2月15日から翌1839年4月15日までの記録だと記されている。イタールは、1838年に入るとリューマチに苦しんでいた。そして同年7月4日、療養先のパリ西郊外のパシーで死亡した。とすれば、さほど長い期間、セガンはイタールから直接手引きを得ていたわけではない。イタール亡き後、セガンは当代の実力者の精神医学者エスキロールが開設

IV

Ces travaux préliminaires se sont, autant que possible, effectués à l'aide des signes représentatifs de la parole ; et nous sommes arrivés à la distinction (mentale, il est vrai, puisqu'Adrien ne parlait pas) des vingt-cinq lettres de l'alphabet. Je les ai groupés en syllabes, en mots, en phrases, et il a lu ; mais sans parler toujours.

L'écriture passive a marché presque de front, et sous l'empire d'une volonté étrangère, posée comme une machine électrique sur son cou ou sur sa main, il écrivait.

Que manquait-il donc pour que (cette main retirée) celle de l'enfant continuât à fonctionner ?.....

Vous le verrez tout-à-l'heure.

Toujours est-il que l'action régulière était substituée à l'action purement nerveuse et désordonnée, et que cette substitution durait, remarquez-le bien, tout le temps

4 文字と習字

予備的な作業は、可能なかぎりことばの代表的な記号によって実施された。そして、われわれはアルファベットの 25 文字の弁別(アドリアンは発音しなかったので、おそらく精神的な弁別)に導くことができた。私はアルファベットを集合的に用いて、音節、単語、句を作り、そして彼は必ずしも発音したわけではないが、それらを読んだ。

受動的な書きは、ほとんど進歩した。外的な意志の支配のもとで、電気仕掛けの機械のように、彼は頸や手を動かして書いた。

この子の(痙攣している)手が、機能を持続けるためには、一体何が欠けているのだろうか。間もなくそれがわかるだろう。

とにかく、今までのまったく神経的に障害を受けていた活動が、調節された活動に撮ってかわったこと、そしてよく注意するならば、この変化が、彼を統御する意志と彼が直接に接触しているときには持続した、

4.

これらの前提的な作業は、可能な限り言葉を代表とする表象を用いて、行われた。それで、われわれは、アルファベ 25 文字の識別作業 (アドリアンは言葉がないので、精神的な意味なのだが) にまで至った。私は、それらを、音節グループ、単語グループ、語句グループに分け置いた。そうして、かれがそれらを読んだ。もちろん発語はされない。

命ぜられたままに書くことがほぼ並行して進められた。首や腕に電気仕掛けの機械を乗せているかのよう、外在の意志に動かされて、かれは書いた。

この子どものそれ (この引退した手) が機能し続けるためには、一体、何が欠けているのだろうか?...

後ほどお分かりになるだろう。

とにかく事実は、きちんとした活動がただ神経質で不規則な活動に取って代わったということであり、このことが、子どもが自分の意志でもって直接関わっている間は持続され

していた「健康の家」に、毎週、通ったという。エスキロールは、多数の症例研究をもとに、1816年に発表した論文「狂気について」で、「感覚(*la sensibilité*)」「知性(*l'intelligence*)」「意志(*la volonté*)」の能力がきわめて虚弱か欠如しているため「痴愚と白痴とは教育・訓練(*l'éducation*)はできない」と指摘し、1837年には、論文「狂気について」を巻頭に置いた大著『医学的、衛生学的、法医学的見地の下で考察される精神病について』(全3巻)において、「第14章白痴状態(*idiotie*)」を設け、白痴は病気(白痴症 *idiotisme*)ではなく状態(*idiotie*)である、しかし、終生その状態を変えることはない、とした(前掲書、第2巻)。1816年に打ち立てた理論の補強である。その立場からいえば、アドリアンが本当に白痴ならば、イタールの指導も、セガンの実践も、無駄骨に他ならないはずである。何故にエスキロールはセガンの訪問を毎週受け入れたのであろうか。中野善達は、アドリアンの教育を手がける以前にセガンは医学校でエスキロールの弟子であった、としている(中野善達「訳者あとがき」、

que l'enfant était en contact immédiat avec la *volonté* qui le gouvernait.

Passons au second point, l'*intelligence*.

V

En demandant une chose à Adrien, on ne l'obtenait presque jamais ; jamais deux ensemble ; jamais quand on lui montrait un objet, il ne pouve en indiquer le nom, quoique ce mot fût placé là, près de l'objet, sous ses yeux. Mais nous possédions la lecture mentale, et l'enfant avait des instincts : avant de manger d'une chose il dut en indiquer le nom ; et graduellement il comprit la relation de l'écriture avec le mot prononcé, et du mot avec la chose.

La théorie du calcul lui fut simplifiée, et il calcula de tête avec une facilité que l'on applaudirait dans tous les enfants de son âge.

ということは事実である。

それでは、第2の知性に移ろう。

5 知性の発達

アドリアンにある事物を要求しても、滅多に私に手渡してくれなかったし、二つの事物の場合にはまったくだめだった。彼にある事物を提示したときに、彼はその事物の名前を指し示すことができなかった。しかし、われわれが知的な教授をさしひかえると、この子は本能的に行動した。そこでものを食べる前には、その名前を指し示すに違いないと考えた。こうして彼は徐々に書かれた文字と発音される単語との関係、単語と事物との関係を理解した。

数え方の原理は彼のために単純化された。そして、彼と同年齢のすべての子どもと比較しても、彼は人が賞讃するほど容易に、落ち着いて数えることができた。心像によって彼

ていた、ということははっきりしている。

第2の点、知性に移ろう。

5.

アドリアンに一つのことを要求しても、ほとんどそれに応えることはなかった。二つ同時にはまったく駄目。かれに対象物を指し示しても、かれはその名前を教えることが出来ない、その単語はそこに、つまり、対象物のそばに、かれの目の前にあるにもかかわらず、である。しかしわれわれは（発語無しの）読みを交流しあった。すると子どもは自ずと名前を教えるようになったし、ものを隠してしまう前に必ずその名前を教えるようになった。そして次第にかれは、書き文字と発音された単語との関係を理解するようになったし、さらには単語ともものとの関係づけるようになった。

計算の理論はかれにはたやすかつ

『エドアール・セガン・知能障害児の教育』中野善達訳、福村出版、1980年）が、それはありえないことである。ほかに要因を探そう。

ジャン＝エティアヌヌ＝ドミニク・エスキロールは1772年フランス・ツールーズに生まれ、1794年から医学の道に入っている。サルペトリエール救済院（現サルペトリエール病院）で、近代精神医療の魁フィリップ・ピネルのもとで精神医学を学び、1805年に医学博士号を得た。1811年サルペトリエール救済院の医師に任ぜられ、1826年からシャラントン救済院の主任医師を務めた。かたわら、サルペトリエール救済院近在のイヴリー通りの私宅を「健康の家」として、精神病患者たちの共同生活の場にして、精神療法の医療実験を行っていた。

1840年12月、パリで死去した。

エスキロールの経歴を見る限りセガンとの接点の具体は見いだし得ない。ただ、1805年に学位を得たというのはセガンの父ジャック・オネジム・セガンと同じであり、論文の主査がピネルであることも両人は共通している。イタールがそう

A l'aide des images, il comprit la relation des représentations avec les choses mêmes. Ce fut une étude lente et progressive, qui commença avec l'alphabet, et finit par la connaissance des 200 principales œuvres du salon de cette année.

Cinq mois avant ces derniers résultats l'intelligence était déjà fort développée, mais sans mode d'expression. La *parole* n'existait pas encore, à diverses reprises, des efforts avaient été tentés dans cette voie, mais sans résultat

VI

Et pourtant, sans la *parole*, qu'est-ce que l'*intelligence*?...

Pour les métaphysiciens, la parole est le signe représentatif des idées (et surtout, auraient-ils dû ajouter, de la volonté et du sentiment) ; mais passons.

Pour moi, la parole ne pouvait

は事物とそれを描いた絵との関係を理解した。彼はアルファベットから始まり、ゆっくりした漸進的な学習によって、この年の間に 200 種の主な室内作業を理解した。

最後の結果を得る前の5ヶ月間で、知能は非常に発達したが、表現の方法は発達しなかった。しかも、いまだに話しことばは存在しなかった。徐々に話し方の課程に入るように努力してみたが、その成果はなかった。

6 はなしことば

しかし、ことばをとまなわなない知性とはいったい何なのか。形而上学者にとって、ことばは観念の表出的なサインであり（そして殊に彼らはそれに加えたにちがいないが、意志と感情の）、すなわち、実に情念の表出的なサインである。

私にとっては、ことばは、私が別々

た。かれと同年齢の他の子どもと遜色ないほどに、簡単に暗算した。

絵画を補助として、かれは表象とそのものとの関係を理解した。アルファベで始められたゆっくりと漸進的な歩みの学習は、この年、居間での 200 の主要な活動内容の理解で終わった。

このような最終的な結果を得る 5ヶ月前には、すでに、知性が十分に発達していた。ただし表現方法はそうではない。(話し)言葉は未だ無い。あれこれくり返して努め、手段を講じてはみたものの、結果は得られなかった。

6.

しかし、言葉のない知性とは一体何なのだろう?...

形而上学者にとって、言葉は観念の典型的な記号である（とりわけ、かれらはきまって、意志と感情との、と付け加えるはずである）。そのことはさておいて、次に進もう。

私の場合には、言葉とは、私がす

であったように、エスキロールもセガンに若き日の想い出を重ねてなつかしみを覚えていたのであろうか。そうであったとしても、セガンとエスキロールとを直接結んだことの説明にはならない。この点に関しては、セガンは、毎週子どもたちをつれてエスキロールのところに行った、と回想しているだけである。

「白痴は教育（訓練）不可能である」との学説を打ち立てている精神医学の大家のところ、白痴の子どもたちの教育の相談に赴くということは、論理的には説明がつかない。ただ、セガンが、エスキロールからは「概念」(les idées)を学んだと謝辞を述べている（セガン「遅れた子どもと白痴の子ども教育に関する理論と実践 不治者救済院の若い白痴者への訓練 第2四半期」1842年）ことから推測できることは、医学の基礎のないセガンが精神医学、とりわけ白痴について、エスキロールに指導を仰いだ、ということである。その際エスキロールは、セガンに、「白痴には教育・訓練の成果は認められることはない」と念を押したことだろう。

この二人の「橋渡し」役を務めたのが

être que la combinaison de l'action et de l'intelligence que j'avais obtenues déjà séparément, et qui devaient venir se confondre dans la faculté qui consitue peut-être la seule supériorité primitive de l'homme sur les animaux, faculté qu'il me fallait obtenir, la *parole*.

VII

Mais, qu'est-ce donc que la *parole* ?

La *parole*, fait simple en apparence, est complexe au point de vue de sa production. Elle est le résultat de deux phénomènes distincts, l'émission du son ou de la voix proprement dite, et la modification du son par l'articulation.

Le *son* vient des poumons par le larynx, sans autre modification que celle des tons qui n'influent en rien sur l'identité des sons, et n'ont guère de valeur qu'en musique.

に得たところの活動と知性の単なる組み合わせではなかった。活動と知性は、おそらく人間を動物よりも唯一の基本的に卓越した存在にする能力、すなわち、私が得なければならなかった能力、すなわちことばと混じってやってくるにちがいがなかった。

7 話しことばの理論

それではことばとはいったい何なのか。

ことばは現象だけを見ると単純であるが、その産出という点から見れば複雑である。それ泊別できる二つの現象の結果である。第1には音声、第2には構音活動によって音を変化させることである。

音声は肺臓から咽喉を通して発せられるが、音の同一性にはまったく影響を与えないところの、調子の変化のほかにはいかなる変化も与えない。したがって音楽においてこそ、それは意義を持つ。

音楽によって、われわれは、いく

でに別個に得た活動と知性との結合以外にはあり得なかった。つまり、人間が、動物に対して、おそらく、ただ一つの根本的に優越する能力において、活動と知性とが混じり合っで現れてきた、私が得なければならなかった能力とは言葉なのである。

7.

では、言葉とは何なのだろうか？

言葉は、現れ方は単純であるが、それが生み出される観点で見れば複雑である。それは異なる二つの現象の結果である。二つの現象とは、すなわち、音声つまり文字通り言い出された声の発出と調音による音声の変化である。

音声は肺から喉頭で生じる。その際、音調の変化はあるが、それが音声の同一性に影響を与えることはない。それで音楽にこそ有効性を持つ。

音楽によって子どもは音声や声を発達させた。その音声や声は、ある種の動物のように、とんがったよう

父ジャックだったのだろうか。それはありえなくはない。というのは、ジャックはセガンの白痴教育実践に好感を抱いていたようであり、金銭的な援助をしていたのではないかと推測されるからである。

一方、エスキロールはイタールと無二の親友であったとされる。イタールが医学校に学籍登録をするのは1797年のことだが、そこでエスキロールとは終生親密な友人関係を結ぶことになる(ティリー・ジネスト『アヴェロンのヴィクトール最後の野生児、最初の狂児』1993年、による)。エスキロールは精神医学、イタールは聴覚学。学問的に兩人をつなぐものはないように思われるが、イタールは、聾啞と白痴とを関係づけた研究を行っていた。

そして、兩人が同一テーマのもとで執筆に参加した著作物も、持っている。ジャン・クリストフ・ホブマン『精神病者と聾啞者に関する法医学』(1827年)に兩人が詳細な注記をしたためている。この中で注目すべき記述が見られる。それはイタールによるもので、「全く動物のような暮らしでいのちを紡ぎ、森の中でひ

Par la musique on a développé le son ou la voix que l'enfant émettait par bonds aigus, comme certains animaux.

L'articulation est le résultat de divers mouvements des organes de la bouche ; et, par une observation attentive de ces mouvements internes ou externes, on a obtenu l'imitation de la plupart des articulations dont se compose la prononciation de la langue français.

VIII

De telle sorte qu'absolument parlant, et relativement pour les personnes qui l'entourent, Adrien *parle*.

Mais il ne parle que *comme* il lit, comme il écrit, comme il se tient immobile, comme il imite un geste, comme il fait toutes choses vers lesquelles ses instincts ou ses appétits ne le poussent pas : Il

つかの動物にもみられるような、幼児が躍動的に発する音声、または声を発達させたのである。

構音は、器官や口蓋のさまざまな運動がもたらすものである。これらの器官の内側や外側の運動の注意深い観察によって、われわれはフランス語の発音が構成される大部分の構音の模倣を獲得してきたのである。

8 達成された進歩の概要

一般的に、かつ相対的にいえば、そのように彼を導くならば、アドリアンは彼のまわりの人びとに話すだろう。

しかし、そうであっても、彼は拾い読みをするようにしか話さないし、書き取りをするようにしか話さないだろう。動きの乏しいままに、あるいは身振りを模倣するようにしか話さないだろう。そして、彼がある事

な激しさと発せられたものであったが。

調音は口の器官のさまざまな運動の結果である。すなわち、内外のこの運動を注意深く観察・模倣することによって、子どもは、フランス語の発音が構成される調音の大部分を獲得した。

8.

うまく言葉が出るようになったので、アドリアンは、まわりの人に、**わりに話しかけている**。

しかしかれは、読む時にしか、書く時にしか、不動の姿勢を取る時にしか、仕草をまねる時にしか、話さない。かれは、衝動とか欲望とかに駆り立てられてことを行う時にしか、話さない。つまり、**他の意志**による支配のもとで、かれは**話す**のである。

とりで生きた人間に見られたある状態が、先天性の白痴なのかたまさか愚鈍・白痴のような状態なのかの検討は、今もなお必要である。この事例のようなことはいくつもあり、その事例の一つとして、今世紀初め、アヴェロンに森に棄てられたひとりの子どものことを挙げるができる。云々とある。イタールは「アヴェロンの野生児」を白痴の少年だとの結論を出してはいなかったのである。もし白痴の子どもだとの結論を出していたとしたら、イタールはその実践をどのように締めくくったのだろうか。イタールのヴィクトールに対する実践は、巷間で言われているのとは違って、1806年の、いわゆる「第2報告書」を出して以降放棄してはいない。ヴィクトールは1810年まではパリ聾啞学校に留め置かれたし、それ以降1828年に死去するまで、「研究を持続するために」、聾啞学校のすぐ近在の、聾啞学校が所有するアパートで、聾啞学校時代から世話をしたグラン夫人と共に、生活が保障されたのである。まさに、ヴィクトールは、白痴かどうかを見極める研究の材とされ続けたのである。

parle sous l'empire de la *volonté d'autrui*. En résumé donc, il agit, il pense, il parle ; mais à la condition expresse qu'un autre que lui *voudra* toutes ces choses pour lui.

Et qu'y a-t-il d'étonnant ?...

On a réglé ses mouvements, et son corps s'est soumis à la règle ;

On a dirigé son esprit, et il a montré de l'intelligence ;

On lui a enseigné comment s'émettaient et se modifiaient les sons, et il a parlé.

Mais on ne lui a point encore enseigné à *vouloir*.

IX

Ce qui lui manque donc, c'est la *volonté* ou *spontanéité*.

柄を本能や欲望にかりたてられずにするように、すべてそのようにしか話さないだろう。要するに、彼は他人の意志の支配のもとで話すであろう。彼でない第三者が、彼に代わってすべてのことを意志するというような決定的な条件の下で、彼は動作し、考え、話すだろう。

そして、驚くべきことではないか。

われわれは彼の運動を統御した。

そうすると彼の身体は秩序に従った。

われわれは彼の心のはたらきを指導した。そうすると彼の知性は進歩した。

われわれは、かれが自分の音声をどのように発し変化させたらよいかを教えた。そうすると彼は話せるようになったのである。

しかし、これまでのところ、われわれはまだ少しもかれが意志するようには導いていなかったのである。

9 自発性の欠如

したがって、彼に欠如しているのは、意志ないし自発性である（食べ

とはいえ、要するに、かれは働きかけ、思考し、話すのである。だがそれは、厳密に言えば、かれに対して、これらのことを、他者が**為さしめようとする**条件の下でのことではない。

驚くべきことなのだろうか？...

動作は秩序正しくなって、体は秩序に従順になった。

精神はコントロールされるようになって、知性が働き始めた。

音声が発せられ変化させられるように指導を受けて、話すようになった。

だが、まだかれは**意志**の指導は何も受けていない。

9.

つまり、かれに不足しているのは、意志あるいは自発性である。

このように見ると、イタールもエスキロールも共に、白痴には教育・訓練は不能だという認識で一致していたと考えてよい。その両者がセガンの第1実践の協力者であったというのだから、その内的な理由について考察されてしかるべきだろう。父親ジャックの熱心な口利きがあったからなのだろうか。もっと別の要因を考えなければならない。

セガンは自らの第1実践をイタルのヴィクトール実践のあらゆる成果を継承したと言い、「エスキロールの指導に基づくイタルの下絵による鑄造物」だと記している。白痴に教育は不能だと考える二人が、アドリアンという男の子に対するセガンの実践過程に寄り添うという光景からは、セガンの言辭にも関わらず、それが白痴教育の一端だと考えることは困難である。あくまでも「白痴のように見える」子どもへの教育なのである。何故に、イタールそしてエスキロールがセガンの「指導」にあたったかと言えば、人倫関係はともかくとして、それぞれの研究テーマに誠にふさわしい事例であったからだと言わねばなるまい。イタールは龔

(non la spontanéité *insinctive* qui veut manger, courir, crier, boire, et déplace l'individu sans autre guide que ses appétits).

Mais la spontanéité *intellectuelle*, et *morale* surtout, qui cherche à produire l'effet en créant la cause dans la double sphère des idées et des sentiments.

X

D'abord machine à laquelle on apportait tout ce qui pouvait être utile à sa conservation, ou flatteur pour ses instincts ;

Ensuite, être passif, faisant sous une volonté de fer, un apprentissage muet et obéissant de la vie active qui circulait autour de lui ;

Dans ces deux position Adrien a dû être continuellement écrasé par les soins, les paroles et les commandements qui accablaient son incapacité du poids de leur

たい、駆けたい、泣きたい、飲みたいという本能的自発性は、彼の欲望以外の他の導きなしには、彼の方向を転換させないものである。

しかし、知的、そして特に道徳的自発性は、観念と感情という二つの領域において原動力を創りだすときに、効果を発揮するように働くものである。

10 この能力が欠如している第一の理由

まず第一は、彼は機械的存在とみなされ、彼の会話に有益であり、あるいは彼の本能を満足させるようなあらゆるものが彼に与えられたのである。

次に、彼は受動的な存在であり、唾の見習いのように、鉄の意志のもとで行為し、彼の周囲をとりまいていく能動的な生活に従属していたのである。

このような二つの状況にあったため、アドリアンは絶え間なく世話を受け、話しことばと命令に責めたて

(否、食べたい、走りたい、叫びたい、飲みたいという衝動的な自発性は、他の導きが無くとも、人を欲望に駆り立てるのだが)。

しかしながら、知的なかんづく精神的自発性は、観念と感情との二重の領域において、原因を引き起こせば、結果が出始めるのである。

10.

まずは、調子を合わせたり、ご機嫌を取ったりすることが出来るようなものが与えられた機械。

さらに、鉄のごとき堅い意志でもあるかのように黙々と習い、まわりをぐるぐると回る活動的な生活に振り回される、受け身的な存在者。

この二つの立ち位置の中でアドリアンは、絶えず、注意や言葉や命令に責め立てられなければならなかった。注意や言葉や命令は、アドリアンを、わずかな進歩でさえたいそう難しいと苦しめたのである。

唾現象と白痴現象との研究の視点から—アドリアンは唾の状態を見せていた—、エスキロールは、白痴は終生その状態を変えることはない、という立場を失うことはないものの、時代的な動向を直視せざるを得なかった。ピネルの弟子医学博士ファルレがサルペトリエール救済院で白痴・痴愚等を、教育・訓練を目的として集め始めたのが1820年代のことだし、1834年には医学博士フェリックス・ヴォアザンが白痴の子どものための施設を設置し教育・訓練を開始している。ヴォアザンは後、セガンの上司となる人である。また1839年にはピセートル救済院で白痴の子どものための学校が設置された。言ってみれば、セガンの白痴教育は、こうした教育可能性の実験開始の流れの中で進められたわけである。

つまるところ、セガンの第1教育論の結びに「エスキロールの同意を得て」とあるが、エスキロールはこれを白痴教育の成果だと認めたわけではない。あくまでも「白痴のような状態」である子どもに対する教育の成果としたのである。

facile évolution.

XI

Ainsi, si la faculté de *vouloir* lui manque c'est en vertu de la double logique de son organisation et de la première phase de son éducation; donc ce que nous devons nous attacher à développer dans la seconde phase, c'est la volonté, la spontanéité qui se traduisent par l'*initiative*. Il faut qu'Adrien prenne l'*initiative*.

XII

Pour cela faire, l'éducation qui ne s'était produite jusqu'ici que sous la forme du *commandement*, doit revêtir le caractère de *l'observation*, attitude passive qu'interrompra rarement une

られねばならなかった。それらは、かれが自由に進歩することを拘束し、彼を無能力のままに苦しめてきたのである。

11 その第二の理由

このように、彼に意思の能力が欠けているとするならば、それは彼の体質と彼が最初に受けた教育からもたらされたものである。

そこで、われわれがおこなう教育の第二段階で、彼に発達させなければならないのは、“イニシアチーフ”という語で表される意思、すなわち自発性である。アドリアンは“イニシアチーフ”を身につけなければならないのである。

12 自発性の教育法

この自発性を発達させるためには、いままで“命令”形のもとで実を結んできた教育は、観察という方法、すなわち彼の目には見えない指示と、それとは感知されない権威を中断させることがない受容的態度をまとわ

2.

セガンが教育・訓練をした対象児 H... 家のアドリアンは、どのような家庭の子どもで、何歳ぐらいだったのだろうか。セガンはそのことについて直接に論究していない。だから、時代的社会的背景や第 2 次資料等から推測せざるを得ない。

白痴の子どもを個人にゆだねて教育・訓練をするということは、よほどの篤志家（博愛主義者）か、有償で請け負う家庭教師的な存在があったからだろう。子どもの半数以上が、どのような質であれ、学校で学ぶことができなかった時代、すなわち義務教育制度がきわめて未成熟の時代・社会をバックグラウンドとしていることもあわせ考えなければならない。

結論（推論）からいえば、H... 家は有資産階級、アドリアンにはなんとしても識字能力をつけさせなければならない事情があった、たとえば財産継承権をかれが継承しなければならなかった、というような。

アドリアンの年齢を推測させる記録がある。セガンが 1840 年 1 月、当時パリの最北端に位置するピガール通りに、公

11.

このように、かれに**意欲**の能力が欠けているとすれば、それは、かれの器官とかれの第 1 段階の訓練という二重の当然の帰結によるものである。われわれが第 2 段階で発達させることに取り組まなければならないこと、それは ^{イニシアチーフ} **発意** によって発現される、意志であり、自発性である。アドリアンは**イニシアチーフ**を為さねばならない。

12.

これを為すために、これまで**命令**の形でしか成し遂げられてこなかった訓練は、**監視**という特徴を帯びなければならない。監視とは、悟られないような管理やそれと感ずることが出来ないような権威をとり続ける

direction occulte et une autorité imperceptible.

Dans cette période, tout ce qui allait au-devant des besoins et des désirs de l'enfant, doit être mis à distance, et faire comme un cercle autour de lui. Lui au centre, il ne pourra atteindre la circonférence que par le rayonnement spontané de sa volonté vers les objets circumposés qu'il convoite.

Cette provocation *négative* à la *volonté* doit sans doute être coupée par des occupations physiques et intellectuelles, comme la gymnastique, la lecture, la prononciation, la mémoire, etc... Mais ces travaux ne tiendront plus que le second rang, et serviront surtout à délasser l'enfant de sa *laborieuse inaction*.

XIII

Ici donc plus que jamais, toute influence délétère d'apitoiement,

なければならぬ。

この時期においては、子どもの必要な欲求を引き起こすすべてのものは、一定の距離を置いて、彼の周囲に円をえがくように置かれねばならない。

この円の中心にあつて、彼は自分の欲する周囲の事物に向かつて、彼は自分の意志を自発的に放射しなければ、その円周に手が届かないのである。

自分で何かしようとする意志の誘発を妨げてきた者は、体験や課業、発音や記憶訓練、等々の身体的・知的訓練によって、たちきられることは疑いもない。これらの作業は、もはや二次的な位置をしめるのではなく、彼のいわば“勤勉な不活発”からくる疲労をいやす役割をもっているのである。

13 支障となるものを取り除くこと

したがって、この段階ではいままです以上に、彼を憐れみ、手をのぼし

受容的な姿勢のことである。

この時期には、子どもの欲求や欲望に向かつていくものすべては、かれの周辺に円のようにして、離して置かれなければならない。中心にはかれがいるが、かれが欲しがっているものは円周に置かれており、かれはその対象物に向かつて、自分の意志によって、自分から手を差し出すことでしか、円周に手を届かせることは出来ない。

意志を否定するようなことは、なるほど、体育、読み方、発音、記憶、などといった身体的知的諸活動によって遮られるには違いない。だからといって、この作業は二次的な位置にあつてはならず、くれぐれも、そうした無駄骨を折る子どもを癒してやるようなことがあつてはならない。

13.

かつてないほどに、同情、援助、救助、世話といった有害な影響はか

教育大臣の認可を得て、白痴の子どもたちのための寄宿制教育施設(cours クル。修了・卒業証書が出ない各種学校)を設置した。この学校を医学博士のフェリュスが調査に来、「(私は見たわけではないが、セガンが) 8歳の白痴の子どもに読書算、会話、着衣を教えた(ことを、ゲルサンとエスキロールの両人が保証している)」などと報告書にまとめている。ゲルサンとエスキロールはセガンの第1教育論の実績を保証し、その到達を高く評価した、最初の人たちである。つまり、アドリアンは8歳ほどの子どもであったわけである。

セガンはきわめて多動な少年アドリアンと出会った。自己を律することが困難なこの子に、まずは身体を静止続けさせるという課題を果たそうとする。セガンは、1843年に発表した、初の体系的な白痴・白痴教育論「白痴の衛生と教育」で、次のように書いている。

A... H... は、抑えの効かない興奮症であった。猫のようによじ登ったり、ネズミみたいに逃げてしまうので、3秒として彼をじっと立たせておこうと

d'aide, de secours, de services doit se retirer de lui : ne dites pas à un malade qu'il est à l'extrémité, soignez-le ; à un enfant qu'il est faible, il n'observerait marcher ; qu'il ne sait pas faire tout comme tout le monde, il ne ferait jamais rien.

Il fait, comme stimulant de tous les jours, un homme fort, dont l'allure, le geste, la voix suent l'énergie et en imprègnent l'être auquel nous voulons donner de la confiance en lui-même.

Il faut près d'Adrien un homme qui sache l'obéissance légale, comme un soldat ; un homme calme et discipliné, une onsigne vivante, qui fasse ou ne fasse pas, laisse faire ou empêche, selon qu'il aura reçu l'ordre de faire, laisser faire ou empêcher.

Rien de plus, mais rien de moins.

て助けてやり、彼につくすことなどから生じる有害な影響から、彼を引き離さなければならない。彼が重病にかかっているといつてはならない。注意深く世話をすることが必要である。虚弱な子どもであるといつてはならない。彼はあえて歩こうとしなかったのである。彼は人並みにすべてのことができないといつてはならない。彼はいままで体験したことがなかっただけである。

彼の日常生活において、彼に刺激を与えるような強い人間の存在が必要である。彼の行動、身振り、声がエネルギーを発散し、われわれがその子自身に与えたいところの信頼の存在を受胎させるような人がいることが必要である。

アドリアンのかたわらには、兵士のように規律に従うことを知っている人が必要である。このように落ち着きがあり規律を尊ぶ人、きびきびとした守則は、アドリアンが守るべきことに従ったかどうかによって、彼を自由にさせたり、制止したりす

れから引き離されなければならない。患者に重病であり、だから手当てをする、とは言わない。ある子どもにお前は弱い、だからあえて歩かせない、とは言わない。世の中のことなど何も知らなくてよい、どうせ何も出来やしないのだから、とは言わない。

毎日、刺激物として、逞しい男性が必要である。歩きぶり、振る舞い、声に力強さが感じられ、そのことで、自信を得させたいとわれわれが願っている人間に影響を与えるような男性が必要なのである。

アドリアンの側には、兵士のように、きちんと服従することを知っている男性が必要である。穏やかで規律正しい男性、為すのか為さないのかのテキパキとした指示は、為すがままにさせるか制止するか、つまりアドリアンが命令に従うかどうかで、為すがままにさせるか制止するかになる。

ただそれだけのことだが、それ以下ではない。

思ってもそれができなかった。私は彼をイスに座らせ、私も彼と向き合って座り、私の足と膝の間に彼の足と膝を据えさせ、私の片手は彼の両手を捉えて彼の腿の上のにせ、一方、もう片方の私の手は動いてやまない彼の顔を捉え、絶えず私の方をちゃんと見るようにさせた。寝食を除いて、この状態をじっと 5 週間も続けた。こうして後、A... H... は不動の姿勢で立ったままでいられるようになり始めたのである。

自己を律することができれば他を模倣する、すなわち学習へと向かうが可能となる。「自」と「他」の関係の結びこそが白痴児にとって困難な活動であり、だからこそ重要な教育課題となる。セガンの教育論の白眉とするところである。

ところで、セガンは、人格（能力）を、「活動 (l'Action)」「知性 (l'intelligence)」「意志 (la Volonté)」の3つの系で捉えている。先に紹介したエスキロルの3つの能力の系と異なるのは、エスキロルの「感覚 (la sensibilité)」がセガンでは「活動」となっていることで、他は同じである。セガンは、「感覚」訓練

XIV

Dans cette condition morale, les progrès de confiance, de résolution, de volonté, de spontanéité, d'audace, viendront vite et marcheront bientôt de front avec les deux grands facultés précédemment développées.

En dehors de ce système, l'éducation physique (*sic.*) et intellectuelle prendra sur le caractère une avance incomplète et stérile, que les facultés spontanées ne pourront jamais rejoindre, ni féconder par conséquent.

Nous aurons fait de l'enfant une chambre obscure qui percevra tout et ne renverra rien.

XV

Ne dites pas qu'il faut attendre ; nous avons déjà trop

るのである。それは、ほどをわきまえておこなわれるのである。

14 この進歩を達成するために必要な道徳的条件

このような道徳的条件によって、確信、決断、意志、自発性、大胆さなどの進歩は活発となってきて、まもなく先に発達した二つの主要な能力と並行して進むのである。

このような方法によらなければ、身体と知性の教育は、その特徴として自発的能力といつになっても結合することができず、先行するだけで不完全な実りのないものとなるであろう。そうすれば、この子は刺激を受容しても、反響しない暗箱のようになってしまうだろう。

15 さげがたい遅滞

待たなければならないとはいわない。なぜなら、これまでもあまりに

14.

このような精神的条件でこそ、信頼、決断、意志、自発性、勇気の向上が速やかになされ、やがて、先に発達していた二つの大きな能力と平行して進むことになる。

この方法以外では、身体と知性の訓練は、その進歩は不完全でむなしなものという**特徴**しか残らない。**自発性**の諸能力はけっして結びあうことはないし、それ故豊かにしあうこともないのだ。

われわれは子どもを暗い部屋に閉じこめ、決して外に出さないようにしてしまうだろう。

15.

待たなければならないと言ってはならない。われわれはすでに十分に

の重要性を後に実践課題とするようになることは、付言しておきたい。しかし、「活動」の重視はセガン教育論の大きな特徴である。それは、先に述べたような、自他認識の礎となるが故である。

白痴は教育不能とする立場は、それぞれの能力がきわめて虚弱か欠落しているかだと言い、訓練による発達は望めないとする。セガンは、第1論文では明言していないが、後に、白痴はそれぞれの能力がきわめて虚弱であるが故に個別能力の発達は困難だが、それぞれの能力はそれぞれに依存しあっているものであり、能力の三位一体を図ることによって、白痴は人格発達を遂げることができる、と言う。第1論文はそのアウトラインが描かれていると読むことができる。

具体的には、各能力の訓練がそれぞれ個別に為されればいい、というわけではない。セガンは明記する、活動、知性、意志の順に訓練されなければならない、と。彼の以降の教育論すべてはこの考えに基づいて綴られている。そしてそれはセガンの実践の事実なのである。「静」と「動」を対概念とした白痴教育の出発、

attendu, nous avons déjà perdu deux mois : et le temps perdu se rattrape-t-il ? deux mois encore, et la température énervante de l'été causera trop d'abattement physique et moral : il serait trop tard ; au printemps de l'année prochaine il ne serait plus temp !...

XVI

Je crois devoir franchement vous avouer qu'en écrivant à la hâte ce résumé incomplet de notre situation, j'ai voulu vous démontrer la concordance de la théorie avec les faits.

Ceci est la voie logique que j'entrevois comme la seule ligne droite susceptible de nous conduire au développement complet d'Adrien, ou sera le preuve malheureusement fatale de ce vous aurez pu faire pour votre fils, et de ce que vous n'aurez pas fait.

またされたし、すでに二ヶ月もの時間を失っているのであるから。さらにこれからの二ヶ月で失われた時間を取り戻せるだろうか。神経にさわる夏の暑さが、身体的にも精神的にも、彼を非常に衰弱させた。非常に仕事は遅れている。来年の春までしか時間は残されていないのである！

16 二者択一

われわれの置かれている状況についてのこの不完全な要約を急いで記述しながら、私は実際と理論の一致を実施しなかったことを、率直に告白しなければならぬと思う。

この要約は、アドリアンの完全な発達へと私たちを導くことができる唯一の近道として、私が予見する論理的な視点となるものである。また、あなた方が、彼のためになることができただけでありながら、不幸にもどうしてもできなかった事柄についての証拠を示すものともいえよう。

待った、すでに2か月を無駄に過ごしてしまった。時を取り戻せるだろうか？2か月を。夏のいらいらさせられる気温は身体的精神的衰弱を強く引き起こしてしまうだろう。非常に遅れている。今度の春までにしか時間は無いというのに！...

16.

私はあなたに率直に申し上げるべきだと思う。つまり、大急ぎでこのわれわれが今あるところを不完全ながらまとめ上げたが、あなたに理論と実践との一致を証明したかったのだ。

これは、アドリアンの完全なる発達へわれわれを導く可能性のあるただ1本の真っ直ぐな線として私がかいま見た、論理的な筋道である。あなたが、ご子息のために為し得たであろうけれども為さなかったことについての、まことに残念な証であろう。

そして、模倣、表現（書画、音声）、記憶等々と続く。

発話のために音楽を取り入れていることも大きな特徴である。アドリアンに即して言えば音楽の導入は比較的容易であった。アドリアンはパパ(papa)という発語でさえ困難だったという(1843年論文「白痴者たちの衛生と教育」より)。教育・訓練に音楽を取り入れるというのはセガンのオリジナルかと言えば、そうではない。師イタールもそうであったし、精神医学者たちの白痴教育カリキュラムにも重要な位置づけがされていた。セガンはそれらを、躊躇することなく踏襲した、ということになるだろう。

3

セガンがアドリアンの教育を請け負ったのは、いつからいつまでなのだろう。第1教育論に記された期間では終わっていないことは、先にアドリアンの年齢推測のところで述べたことから明らかである。遅くとも1848年初頭には開始され、ピガール通りの学校開設中までは継続されていたと思われる。それがH...家との契約だったのだろうか。第1教育論15

XIIV

Choisissez, Monsieur, et croyez
que cet avis motivé est la plus
grands preuve d'affection que
puisse vous donner en ce moment,

Votre tout dévoué,

Edouard SÉGUIN

23 avril 1839.

Approuvé par M. Le D^r Esquirol,

Le 24 avril 1839.

17 選択

どちらの道を選ぶか決断してほしい。この正当と認められる忠告を選択することが、現在あなた方がアドリアンに与えようとすれば与えられる、彼に対する愛情の最も確かな証拠となるものである。 敬具

1839年4月23日

エデュアル・セガン

1839年4月24日、医学博士エスキロルの同意を得た。

17.

この根拠のある助言は、今、あなたが与えることが出来る愛情の非常に大きな証である、ということ、どうか、信じてくださらんことを。

敬具

エドゥアル・セガン

1839年4月23日

1839年4月24日、

医学博士エスキロルの同意を得て

の項で、「今度の春までしか時間は残されていない。」とあるところから見ると、どんなに短くとも1839年一杯までは契約関係にあったと見ることができる。到達をどのようにすえていたのか、そのあたりも第1教育論では不明なだけに、興味が尽きないところである。

なお、セガンは、アドリアン以外にも白痴の子どもたちの教育を請け負っていたと類推される。場所はセガンのアパルトマン。寄宿型の簡素な教育施設をすでに準備していたとみなすことができる。

出典：

1839.

Paris

Imprimerie de MADAME

PORTHMANN, Pp.15

出典：

中野善達訳『エドアル・セガン 知能障害児の教育』福村書店、1980年10月10日初版発行 198頁～206頁所収。

(初出：清水寛編、埼玉大学セガン・ゼミナール集団著『セガン研究』第3集、1077年)